

# 第 章

## 学 生 支 援

# 第 章 学 生 支 援

## 第 1 節 入学に関する支援

### 1．入学志願者に対する本学の案内

現在、入学志願者に対する本学の案内は、毎年発行する大学案内(要覧)や大学公式ホームページに掲載している。

オープンキャンパスは 2002、2003、2004 各年度とも 1 回実施したが、大学の公開をさらに押し進めるために、2002 年度は 6 月 12 日、7 月 27 日、10 月 29 日、12 月 23 日、2003 年度は計 5 回実施した。

このオープンキャンパスでは入学志願者に対する支援として、本学における授業の公開や、入学志願者が実際に授業を体験できる体験授業をはじめ、施設見学、入学試験に向けての準備や専門実技に関する質問などに本学専門教員が答え、入試に関する説明会などを行っている。

この他、年間 2 回(夏期、冬期)高校生以上を対象とする受験講座を行っている。ここでは受験科目について入学志願者の様々な段階に応じたレッスンや講座を開き、受験までの準備や学修に対するアドバイスをを行っている。

特に高校 3 年生以上を対象とした「短大実技適性テスト」を実施(9 月中旬の日曜日)し、志願する専門実技について学修の進度や到達度をはかり、このテストにおいて実技の実力が本学に入学するに相応しいとの評価を得た人は、推薦入学において志願する当該専攻(コース)の実技試験を免除しているほか、受験に向けて、あるいは入学までの期間から入学後の学習においても継続的に有効なものとなるよう適切なアドバイスを個別に行っている。

### 2．募集要項、入学者選抜の方針と選抜方法

本学では、演奏技術だけでなく新たな音楽文化を創出できる人材を送り出すことこそが使命・目的であるとする理念に基づき、入学者選抜方針は、学生が本学においての学修を希望する実技に対する適性の有無と資質に選考評価の重点を置き、本学で学びたいとする積極的な姿勢を持つ学生をより多く受け入れている。

具体的には、音楽に対する姿勢や適性を重んじるため、2001 年度(平成 13 年度)より短期大学部入学試験において従来音楽系短期大学で実施されてきた音楽の基礎的な能力を測るソルフェージュ等の音楽基礎科目の試験を廃止した。加えて推薦入試においては、従来の画一的な選抜方法に依らず、高等学校でのクラブ活動や個人的に参加したコンクール等での評価を考慮するなど、多角的な選抜方法・制度を設けている。

図表 45 に 2002～2004 年度の入試実績を示す。

図表 45 入試実績 (2002 ~ 2004 年度)

2004 年度

		出願期間	試験期間	合格発表	志願者	合格者	割合(%)
推薦入試	一般推薦	2003年11月1日~7日	11月23日~27日	12月3日	146	87	59.6
	付属音楽院				1	0	0.0
	音楽科				19	15	78.9
	音楽コース				26	21	80.8
	音楽系クラブ				219	157	71.7
	専門実技認定				411	280	68.1
推薦入試小計					411	280	68.1
一般入試	留学生	2004年1月13日~19日	2月5日~9日	2月16日	1	1	100.0
	一般入試				120	80	66.7
2004年度入試合計					532	361	67.9

2003 年度

		出願期間	試験期間	合格発表	志願者	合格者	割合(%)
推薦入試	一般推薦	2002年11月1日~6日	11月21日~25日	12月2日	187	108	57.8
	付属音楽院				4	4	100.0
	音楽科				54	38	70.4
	音楽コース				24	18	75.0
	音楽系クラブ				217	166	76.5
	専門実技認定				486	334	68.7
推薦入試小計					486	334	68.7
一般入試	留学生	2003年1月11日~17日	2月1日~5日	2月10日	1	1	100.0
	一般入試				114	66	57.9
2003年度入試合計					601	401	66.7

2002 年度

		出願期間	試験期間	合格発表	志願者	合格者	割合(%)
推薦入試	一般推薦	2001年11月1日~7日	11月23日~27日	12月4日	190	114	60.0
	付属音楽院				5	5	100.0
	音楽科				50	31	62.0
	音楽コース				32	25	78.1
	音楽系クラブ				274	207	75.5
	専門実技認定				551	382	69.3
推薦入試小計					551	382	69.3
一般入試	留学生	2003年1月11日~18日	2月1日~5日	2月9日	0	0	0.0
	一般入試				142	89	62.7
2002年度入試合計					693	471	68.0

## 推薦入試

本学では推薦入試において、通常の出身学校長による推薦による出願のほか、別に記す4つの推薦制度、大阪音楽大学付属音楽院特別推薦、音楽科及び本学認定の音楽コースを対象とする高等学校特別推薦、高等学校音楽系クラブ特別推薦、専門実技認定を設けている。

《 出願資格：下記のいずれかに該当する者（2005年度入試） 》

- (1) 高等学校（本学が高等学校に準じると認める学校を含む）を2005年3月卒業見込みまたは2004年3月卒業の者で出身高等学校の推薦を得られる者。
- (2) 2003年3月以前に高等学校（本学が高等学校に準ずると認める学校を含む）を卒業した者。
- (3) 大学、短期大学を卒業見込みまたは卒業の者。

併願を可としているが、以下に示す ~ の特別推薦では専願制としている。

《 試験科目：各当該専門実技における課題及び面接 》

## 付属音楽院特別推薦制度

学校法人大阪音楽大学の付属機関である大阪音楽大学付属音楽院（以下音楽院と略す）の進学コースに在籍し、音楽基礎科目及び専攻実技（大学を受験する専門実技）において音楽院が別に定める所定の成績を修め、音楽院長の推薦を得た者は、大阪音楽大学付属音楽院推薦制度の適用を受けることができる。なお、付属音楽院では音楽に関する部分についてのみ推薦するものであり、この制度の適用には高等学校における学修状況や人物について出身学校長の推薦が別途必要である。

《 出願資格：下記の全てに該当する者 》

- (1) 大阪音楽大学付属音楽院進学コース在籍者で特別推薦を受けた者。
- (2) 大阪音楽大学短期大学部に合格した場合、本学所定の入学手続きを行い、必ず入学することを条件として出願するもの（専願）。ただし、この制度の適用を受けた上で大阪音楽大学音楽学部を志願し受験することもできる。この制度の適用は現役高校生（当該年度に高等学校及び本学が高等学校に準じると認めた学校を卒業見込みのもの）に限る。

《 試験科目：面接のみ 》

## 音楽科及び本学認定の音楽コースを対象とする高等学校特別推薦制度

高等学校において音楽を専門的に学んだ人に対して、本学がその学校における音楽教育のカリキュラムを認定するもので、入試においては実技試験を免除する制度で、出身高等学校からの問い合わせに対し、本学専任教員が訪問し、当該学生の高等学校における学修状況等を調査した上で、面接、出願書類により総合的に選考している。

《 出願資格：下記の全てに該当する者 》

- (1) 音楽科・本学が認定した音楽コースを卒業見込みで、高等学校長の推薦を受けた者。
- (2) 大阪音楽大学短期大学部に合格した場合、本学所定の入学手続きを行い、必ず入学することを条件として出願するもの（専願）。ただし、この制度の適用を受けた上で大阪音楽大学音楽学部を志願し受験することもできる。
- (3) 出願時に本学所定の高等学校長特別推薦書の提出が必要であり、この制度を適用する

場合は高等学校から事前（2004年9月15日まで）に入試事務局へ問い合わせが必要。  
《 試験科目：面接のみ 》

#### 高等学校音楽系クラブ特別推薦制度

高等学校における課外活動等で、特に本学での学修を希望する実技において優秀な成績を修めた学生を出身学校長の推薦により面接と出願書類により総合的に選考している。

《 出願資格：下記の全てに該当する人 》

- (1) 高等学校を卒業見込みで、高等学校長及び当該クラブの推薦を受けた人。
- (2) 大阪音楽大学短期大学部に合格した場合、本学所定の入学手続きを行い、必ず入学することを条件として出願するもの（専願）。ただし、この制度の適用を受けた上で大阪音楽大学音楽学部を志願し受験することもできる。
- (3) 高等学校在学中に下記のコンクールで都道府県大会において金賞あるいはそれに類する賞を受賞したクラブに所属し、部員として大会に出場した人（出願する実技とクラブ活動の実技が同じであること）。
  - ・全日本吹奏楽コンクール（小編成は除く）（全日本吹奏楽連盟、朝日新聞社）
  - ・全日本マーチングコンテスト（全日本吹奏楽連盟、朝日新聞社）
  - ・全日本マーチングフェスティバル（全日本吹奏楽連盟）
  - ・全日本合唱コンクール（全日本合唱連盟、朝日新聞社）
  - ・全国学校音楽コンクール（NHK）
  - ・スチューデント・ジャズ・フェスティバル（神戸市、神戸市文化振興財団、日本学校ジャズ教育協会）

出願時に本学所定の高等学校長特別推薦書の提出が必要であり、この制度を適用する場合は高等学校から事前（2004年9月15日まで）に入試事務局へ問い合わせが必要。

《 試験科目：面接のみ 》

#### 専門実技認定制度

本学での学修を希望する実技について本学で実施する適性テスト及び個人的に出場したコンクール等の成績においてその実力を認定し、入試において実技試験を免除する制度で、出身学校長の推薦により、本学教員による適性の診断及び当該コンクールの内容、レベル等と面接、出願書類により総合的に選考している。

《 出願資格：以下のいずれかに該当する者 》

- (1) 大阪音楽大学短期大学部が実施する「短大進学実技適性テスト」を受け、実技の力が入学に相応しい程度で、「短大進学実技適性あり」との評価を受けた人。
- (2) 高等学校在学中に出場したソロ・コンクールで相当の実績をあげ、その結果が大阪音楽大学短期大学部への入学に相応しいと判断した人。ただし、出願する専攻・コースの実技とソロ・コンクールでの演奏が同じ実技であることを条件とする。これに該当するか否かは2004年9月15日までに入試事務局へ問い合わせが必要。

《 試験科目：面接のみ 》

#### 一般入試

《 出願資格：以下のいずれかに該当する者 》

- (1) 高等学校（本学が高等学校に準じると認める学校を含む）を2005年3月卒業見込みまたは卒業した者。
- (2) 通常の課程による12カ年の学校教育を2005年3月修了見込みまたは修了の者。
- (3) 下記のいずれかに該当する者または2005年3月31日までにこれに該当する見込みのある者。
  - ・国において学校教育における12年の課程を修了したもののまたはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
  - ・文部科学大臣が高等学校の課程を同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了したものの。
  - ・文部科学大臣の指定した者。
  - ・大学入学資格検定規定により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格したものの。
  - ・その他本学が相当の年齢に達し、高等学校を卒業したものを同等以上の学力があると認めた者。

《 試験科目：希望する専攻に該当する専門実技及び外国語または国語 》

#### 外国人留学生入試

《 受験資格：以下の全てに該当する者 》

- (1) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者（日本の場合、高等学校卒業）
- (2) 授業が理解できる程度の日本語の能力を有する者。
- (3) 本学が留学生としての資格を認めた者。

《 提出書類：留学生としての出願資格、要件の確認のために必要な以下の(1)～(5)の書類を入試事務局へ提出。書類は日本語（日本語訳）で記入、提出書類確認後、在日身元保証人を通じて出願資格の有無を通知する 》

- (1) 履歴書（3ヶ月以内に撮影した上半身正面脱帽。無背景の写真貼付4×3cm）
- (2) 最終出身学校卒業証明書（日本語訳添付）
- (3) 最終出身学校成績証明書（日本語訳添付）
- (4) 在日日本人の身元保証書
- (5) 志望専攻

《 試験科目：専門実技短大課題、日本語作文、日本語会話（面接） 》

### 3. 広報及び入試事務についての体制

入試事務を担当するアドミッション事務部門の入試広報デスクが入学志願者や受験生などからの問い合わせや質問に対応している。また、企画事務部門の広報室とも常に連繫を密にし、大学広報「Muse」（毎月発行、希望者に郵送）にも随時、受験情報を掲載している。

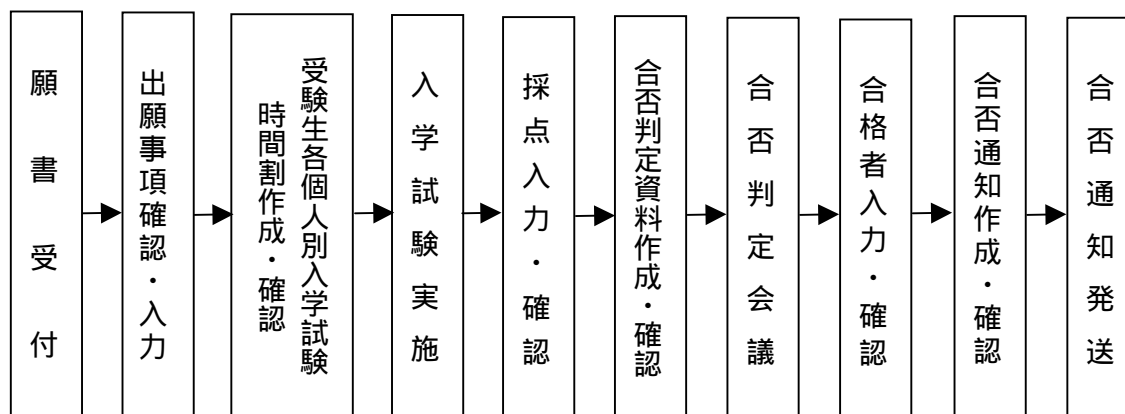
### 4. 願書受けから合否通知にいたる入学試験の流れ

推薦入学試験・一般入学試験とも次の過程で行われる（コンピュータによりシステム化さ

れている)。図表 46 に推薦・一般入学試験の流れを示す。

合格者の選考については、最終判定（合格判定教授会）終了まで、受験番号を伏せ、整理番号のみで採点・判定を行っており、入学選抜は公正かつ正確に実施していると言える。

図表 46 推薦・一般入学試験の流れ



#### 5. 入学手続き者に対する授業・学生生活についての情報提供（入学までの期間）

合格者に対し、入学後履修する科目（外国語、音楽基礎科目等）について以下の(1)，(2)のような案内文書などを送付している。

受講に際する予め決定しておく必要のある部分については以下の書類を発送し、入学生の選択希望を調査し、新年度の受講登録までに配当等を行っている。

- (1) カリキュラム表（当該専攻分のみ学生便覧より抜粋し送付）
- (2) 受講案内

- ・ソルフェージュ、音楽理論のスタート段階（科目）の選択について
- ・ソルフェージュ受講案内
- ・音楽理論受講案内
- ・副科鍵盤楽器、副科鍵盤楽器演習受講案内（作曲、声楽、管弦打、邦楽、ジャズ・ポピュラー各専攻に同封）
- ・外国語科目受講案内
- ・教職課程の履修について（適性試験実施要項）
- ・実技レッスン受講教員について（声楽、ピアノ、管弦打各専攻に同封）

以上の書類を送付しそれぞれに綴じこみまたは添付された用紙を持って新入学生より各届出が提出される。これらの文書・様式等については学務センターが窓口となる。

#### 6. 入学者に対する学習、学生生活の為のオリエンテーション

入学式当日から4月中旬にかけて学生証等書類配布、履修登録ガイダンス、受講相談、奨学金申し込みなどを行っている。

また、女子寮に新しく入った学生を対象に4月上旬もしくは中旬の土曜日曜を利用し、1泊2日でフレッシュマン・キャンプとして研修・親睦の機会を設けている。

## 第2節 学 習 支 援

### 1. 学習・科目選択のためのガイダンス等の概要

本学では科目の選択方法や履修登録の方法について Campus Guide を発行し、学生に対して受講登録の方法及び受講から単位の認定までの流れを案内している。受講登録ガイダンスを専攻ごとに事務説明並びに教員から授業内容の説明を入学時・学期（セメスター）ごとに行っている。また、受講相談日を別に設け個々の相談を受けている。

受講登録についてはコンピュータによって処理しており、個々の学生の履修状況を個別にチェックしている。これにより、卒業にかかる要件が不足しそうな学生に対し、個別に履修指導を行っている。

図表 47 に登録取消を含め、一連の受講登録の流れを示す。

図表 47 受講登録の流れ

(2005 年度用)

受講登録の順序	2 年次	1 年次
A 群 科 目 確 認 ( 前 期 )	3 月 29 日	4 月 2 日
A 群 科 目 受 講 相 談 ( 前 期 )		4 月 4 日
B 群 登 録 ( 通 年 )	4 月 6 日	
C 群 登 録 ( 前 期 )	4 月 7 日	4 月 8 日
単 位 互 換 科 目 履 修 申 込 み	4 月 8 日 ~ 9 日	
単 位 互 換 科 目 履 修 許 可 通 知	4 月 12 日	
受 講 相 談	4 月 12 日	4 月 13 日
受 講 登 録 取 消 ( 前 期 )	4 月 25 日 ~ 5 月 6 日	
A 群 科 目 確 認 ・ 受 講 相 談 ( 後 期 )	9 月 13 ・ 14 日	9 月 15 ・ 16 日
受 講 登 録 相 談 ( 後 期 )		
受 講 登 録 相 談 ( 後 期 )	10 月 7 日 ~ 17 日	

### 2. 学習・科目選択のための印刷物

学習・科目選択のための印刷物として学生便覧、講義概要（シラバス）及び Campus Guide が用意されている。

学生便覧は学生のキャンパスライフに必要な情報として本学の生い立ち（沿革）組織、学則、履修課程、授業内容等について記載する。

講義概要では各科目のシラバス及び担当教員名、単位数、成績評価の方法などについて説明している。（特に 2005 年度より CD-ROM 化）

Campus Guide では学生生活の案内と受講登録の方法及び集中講義の時間割などについて周知を図っている。

### 3. 基礎学力が不足している学生に対する補習授業等の取組み

音楽における基礎学力（ソルフェージュ及び音楽理論）については、自己申告ではあるが、学生の能力に応じたスタートラインを選択できるようになっている。



例えば、音楽理論は 、 、 のいずれからでも始めることが出来る。また、実技授業は個人レッスンであるため、当然、学生の進度に合わせた内容になっている。

前述したが、現在本学では入学時の音楽的な到達度以上に本学で学ぶに値する適性や意思を尊重するため入学後に通常の授業では対応しきれない部分が残されている。また一般入学試験でも語学として国語と外国語のいずれか一方のみを課している事や、様々な高等学校やそれに準ずる学校からの卒業生を受け入れるため、高校学校卒業程度とした学力についても、その到達度は実に様々である。即ち一概に基礎的な学習は終えているとしても実際にはその程度には差があるのも事実である。このような事実を踏まえ一般教育科目や外国語科目などについては、能力別クラスの編成や入学までの補習などを検討し、入学した学生がより充実した学生生活を送る事ができるような方策を用意することが求められる。

#### 4．学習上の悩み、相談に対する取り組みと組織体制

履修相談窓口は常時設けているが、その他、年2回出席状況調査を実施し、指導助言が必要と思われる学生に対し個々の対応を行っている。日常の学生相談には、学務事務部門学生生活担当及び学生部長が対応している。

学生生活委員会（構成員：教員7名＋職員2名）を月1回開催。学籍異動の教授会への上程の他、学生生活における様々な問題について検討・対応している。

学務センターにて受付、内容によっては質問カードを記入、提出を求めており、学習上の問題については、教務担当にて対応している。

レッスン担当教員変更の希望については、学生生活担当にて事情を聞いた上で学生部長が面談し、変更が必要と認めた場合、各教育主任、各部会幹事と相談の上、変更している。その他の悩み事や休学、退学については学生生活担当にて相談を受けている。場合によっては学生部長が面談し解決に努めている。

#### 5．優秀な学生に対する学習上の配慮や学習支援

学習上の配慮は現在行っていないが、奨学制度において、優秀学生に対し卒業時に優秀賞を選考して表彰している。また、同制度の短期学外研究の申請に於いて、成績が資格として考慮される。

専門実技において優秀な学生は、オーディションなどを通じてその実力が認められれば演奏会に出演できるなど、正課授業の延長線上にあるものとして本学が有するハード・ソフトの両面からバックアップを行っている。

### 第3節 学生生活支援体制

#### 1．生活支援のための教職員の組織（学生指導、厚生補導等）

学務事務部門学生生活担当及び学生部長が日常の学生相談にあっている。

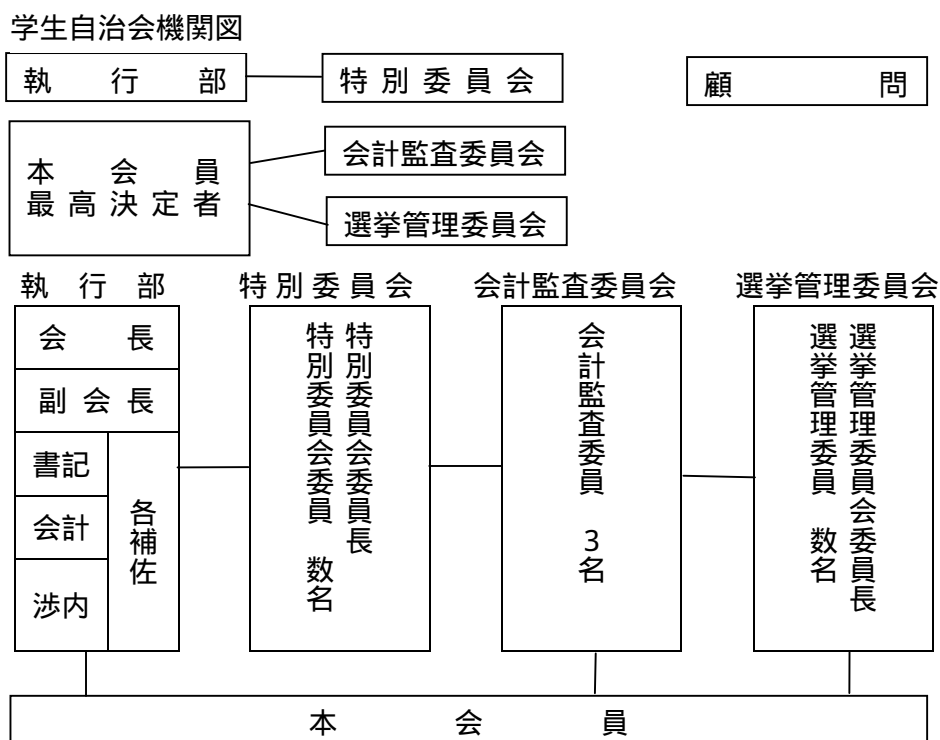
学生生活委員会（構成員：教員7名＋職員2名）を月1回開催。学籍異動の教授会への上程の他、学生生活における様々な問題について検討・対応している。

## 2. クラブ活動、学生自治会活動等の実施状況と支援体制

### 学生自治会

全学生を会員とする学生自治会を組織し、選挙により執行部を選出している。図表 48 に学生自治会組織図を示す。また図表 49 にクラブ・サークル活動の状況（2005 年度）を示す。大学において学生が音楽以外の立場で社会性を学ぶ場としての自治会活動を今後も支援する体制を維持していきたいと考えている。

図表 48 学生自治会機関図（学生自治会会則より）



図表 49 2005 年現在のクラブ・サークル活動の状況

クラブ・サークル名称	学生数(人)					合計
	短大	大学院	大学専攻科	大学	短大専攻科	
劇団「調」	1	1	1	3		6
オペラ研究会						0
音楽ボランティア「おたまじゃくし」						0
軽音楽						0
重音楽						0
てんとうむし	7	1		6		14
ジャズダンス						0
生命哲学	15			17	1	33
将棋	9			6		15
木2会	9			1		10

### クラブ・サークル活動

本学におけるクラブ・同好会活動への学生の参加率は低く、積極的な参加状況とは言い難いが、専門実技との関連が比較的高い種類のものについては、恒常的に活発な活動のあとが認められている。その理由として、授業やその為の準備以外にも、自身の専門実技における自主活動に重要な意味を持ち、日常の大部分の時間をその為に費やしていることが挙げられる。これは音楽系や芸術系短期大学の特徴とも言える部分ではあることは想像に難くない。しかしながら、貴重な青春期である短大生時代を学修のみに偏らず、専門分野以外の様々な体験や友人との交流などを通じて豊かな人生観を育成し、本学においても短大生活をより有意義なものとなるように、クラブ活動の在り方について改めて検討することも必要である。

現在、届け出でのあるクラブ・同好会は以下の通りである（併設大学と合同）。

- ・演劇「調」
- ・オペラ研究会
- ・音楽ボランティア（おたまじゃくし）
- ・軽音楽
- ・重音楽
- ・音楽ボランティア
- ・てんとうむし
- ・ジャズダンス
- ・アカペラ
- ・生命哲学
- ・雅楽
- ・将棋
- ・卓球（サークル）

### 大学祭

大学祭は例年 10 月末～11 月上旬の 3 日間開催。近年はタレント等を招聘せず、音楽を主体にした本学独自の手作りの大学祭を目指している。2004 年度には保護者会（後援会）の協力を得て、教員、保護者から供託を受けバザーを行った。特に 2003 年度には近隣商店街（庄内西商店街）とのタイアップを行い、学生有志によって、商店街のパレードやコンサートを行い、この模様はテレビ等でも取り上げられるなど単なる大学内のみでなく、近隣とのコラボレーションを試みることで社会活動の一端にもなっている。

最大の行事でもあり、学生同士の交流、懇親なども目的とする大学祭などは平常の授業や大学主催行事を超えた部分での社会活動の一環でもあり、学生の積極的な参加を促す仕組み、雰囲気を作り上げることも大学側の責務と言える。

### 学生生活委員会

学生生活委員会が学生自治会に対し、基本的に学生の自主性を尊重しつつ、適宜自治会活動に対するアドバイスを行っている。

### 自主公演活動

本学の学生は音楽家としての本分でもある創作・発表に関して非常に積極的であり、日常的に学生相互による共同を経て、学生だけで自主的にオペラや歌劇、各種コンサートの制作に取り組み、学内外を問わずその発表の場を求め自ら企画運営する伝統を持っている。そのなかでも、「Tutti オペラ」は代表的な自主活動として毎年開催されている。学年や専攻を超え、企画・演出から裏方までを学生自身によって創り上げる過程は、学生の自主性と協調性を高める貴重な経験となっている。本学には、このような自主活動の為に助成金制度があり、音楽文化振興財団によって支援がなされている。2004年度は、18団体より申請があり、約240万円の助成が行われた。

### 3. キャンパス・アメニティへの配慮

離れた場所に設置された校舎にそれぞれ学生、教員のためのアメニティスペースが確保されている（詳細は下記参照）。また非喫煙者の健康に配慮し、学生、教職員を問わず2004年4月より校舎内を全面的に禁煙とし、指定された屋外の喫煙場所でのみ喫煙可としている。

休息空間（食堂を含む）

・中庭

第1キャンパスのA・B・C・D・E・F号館・学生サロンぱうぜに囲まれた中庭には、芝生、植木が植えられ、休憩用テーブル・椅子、ベンチ、カサブランカが設置された憩いと語らいの場となっている。休憩用テーブル・椅子には雨が降っている時にも使用できるように雨よけ（傘）が備え付けられており、夏には日除けとしても機能している。またバトミントン等の簡単な運動を行うことも可能で、学生にとってリフレッシュする場にもなっている。

・学生サロン「ぱうぜ」（兼食堂）

グランドピアノの形を元にデザインされた2階建ての建物であり、座席数、約650席の食堂を兼ねている。正面には四季の花に囲まれたテラス、2階にはグランドピアノ（ベーゼンドルファー）が設置されている。学生や教員が主催するサロン・コンサートなどが催され、授業や練習後の憩いと語らいの場となっている。2階での演奏会開催を希望する場合は、開催の1ヶ月前までに学務センターへの申し込みが必要となっている。

2階にはWindows起動のコンピュータが9台設置されており、インターネットの閲覧、本学図書館の蔵書検索が可能となっている。

・K号館（1階：第1サロン（兼食堂）第2サロン）

本館は第1キャンパスから離れている為、1階に第1サロン（兼食堂）及び第2サロンを備えている。

・O号館（1階：学生控室）

本館は第1キャンパスにある為、昼食等は学生サロン「ぱうぜ」を利用することになる。しかしながら、学生サロン「ぱうぜ」から徒歩約5分の距離に本館が位置することから、本館1階に学生控室が設置され飲食等ができるようになっている。

売店

庄内学舎内の学生サロン「ぱうぜ」2階には文具や日用品、軽食などを扱うミニ・コンビニを設置している。また、N号館1階には（株）ヤマハミュージック大阪のヤマハ売店

を設置し、楽譜や楽書、管弦打楽器の小物、消耗品等を販売しており、ここでは一部合奏授業等で使用する楽器などの斡旋、販売等も行っている。なお、学生、教職員がこの売店を利用する場合は定価からの割引をおこなっている。K号館1階には食堂を兼ねた第1サロンがある。

また、0号館1階学生控室では昼食時（昼休憩時）に学生サロン「ぱうぜ」より弁当、軽食の出張販売を行っており、学生食堂へ移動することで学生が限られた休憩時間を有効に使う事ができるよう便宜を図っている。

本学の規模、学生数からして学生向けの売店等の重要度はあまり高くないと思われるが、品目の多さや内容などは一般のコンビニエンスストアと比べて少ないと言わざるを得ない。しかし、最寄駅から本学までの通学路にも複数の店舗があることや、比較的都市部に近く、日常的な物品などは容易に手に入れられる環境にあることから、このことが学生から見て大きく満足度をそくものになってはいない。

#### 保健室・学生相談室

本学の校医が常駐する保健室は、第1キャンパスのA号館と中庭の間に設置されている。保健室の入り口には観葉植物が置かれ、利用者への心的影響に配慮している。第1キャンパス内に位置する0号館、第2キャンパスのK号館は保健室から離れている為、それぞれ簡易保険室スペース（ベッド、車椅子、担架の設置）を確保している。また救急箱が設置されている箇所は、学務センター、オペラハウス事務室、P号館事務室、0号館事務室、豊南寮、体育用具室、K号館事務室となっている。これら簡易保険室スペース、救急箱は使用されるごとにチェックを行う他に、校医による定期的なチェックが年に1～2回行われている。

学生からの学生生活や学習についての相談窓口として、学務センターに学生相談室が常時設置されている。さらに、専門のカウンセラーを置いた心の相談室が月2回（毎月第2月曜日及び第4水曜日）A号館2階に設けられている。また、カウンセラーへ電話相談も可能となっている。

近年、アカデミック・ハラスメント、アルコール・ハラスメント、パワー・ハラスメントなど、セクシャル・ハラスメント以外にも様々なハラスメントが定義されつつあることを受け、学内におけるあらゆるハラスメントに対応するため、前述した相談室以外にも教職員の中から任命された専属の相談員による相談を受け付けている。

これら、保健室・学生相談室等における利用状況等についての詳細は本節6．学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制と利用状況にて報告する。

## 4．学生寮、通学等に対する支援

### 学生寮

庄内学舎から南東へ徒歩約20分の場所には、自宅通学が困難な女子学生に対して、学生寮である豊南寮を設置している。毎年約70～80名の入寮者を迎えるが、希望者が多数の場合は書類審査によって入寮者を決定している。2002年度には老朽化の解消と学生の現在の生活スタイルに合わせるべく、全館リニューアルを完了し、全室を個室、フローリング、

ベッド、スライド式机、収納棚を設置し、共有ではあるがユニットバスによる個別の浴槽及びシャワー室を完備した。特に本学が音楽系短期大学であることからピアノの持込を可能とし、そのために防音及び冷暖房を完備し 22 時までの練習を可能としている。しかし、近年は入寮者数が減少している傾向もあり、例えば空き室を時間制限のない練習室へ転用するなどして学生寮ならではのメリットを活かした方策も期待される。図表 50 に入寮者数（2002～2004 年度）、図表 51 に豊南寮の概要を示す。

図表 50 入寮者数（2002～2004 年度）

年 度	入寮可能数	全入寮者数	短大 1 年次	短大 2 年次
2002 年度	191	178	41	44
2003 年度	191	179	46	33
2004 年度	191	167	34	42

全入寮者数は大学院、大学、学部専攻科、短大専攻科、短大の全てを合計したものの。

図表 51 豊南寮の概要

名 称	大阪音楽大学豊南寮	
所在地	〒561-0814 豊中市豊南町東 1 - 5 - 1	
本学との距離	徒歩にて約 20 分	
建物の構造	鉄筋コンクリート 2 階建：3 棟、3 階建：1 棟、食堂（平屋）1 棟	
入寮定員	191 名（個室）	
室の広さ・数	大	6 畳・・・・・・・・13 室
	小	4 畳・・・・・・・・179 室
入寮費	70,000 円（入寮時のみ）	
寮 費	小室：年額 342,000 円 大室：年額 372,000 円	
設 備	食堂（兼談話室）、浴室（個別浴槽ブロックと温水シャワーのみブロックあり）、洗濯場、洗面室、物干場、冷暖房完備	
食 事	食費 年額 147,000 円消費税込（全員納入制）（2004 年度） （朝・夕食 200 日分、4 期分納）	
楽器の持込	ピアノ（アップライトのみ）可 防振台は大学で用意 各自持込のみ共有もしくは貸出は無い	
管 理	寮担当職員 4 名 警備員 1 名（幼稚園警備を兼ねる）	

新入寮生は小室（4 畳）への入寮を原則とする。

#### 下 宿

下宿紹介を希望する学生に対しては学務センターが対応している。特にピアノの設置希望に応じるため、防音加工を施した平均家賃 6～7 万円程度の物件を中心に紹介している。図表 52 に示すように、2005 年 11 月 26 日時点で大学近隣に下宿している学生は 58 人である。

なお、毎年 15～20 件の下宿の紹介を行っているが、紹介後の状況（契約成立件数）までは把握していない。

図表 52 下宿状況

	年 度	短大1年	短大2年	合 計(人)
下宿状況	2005年 (11月26日現在)	30	35	67

## 通 学

通学については原則として事故防止のために自動車、単車、自転車とも禁止しているが、特別な事情により単車、自転車での通学を希望する学生には許可を与えた上で登録・許可している。また、女子寮である豊南寮の入寮者のうち希望者は豊南寮事務所にて登録した上で自転車による通学を認めている。これら単車・自転車通学による学生に対しては大学構内に駐輪場を設けている。自転車及び単車による通学は学生総合保障制度に加入している学生のみを対象としており、これら公共交通機関及び徒歩での通学中の事故に対して配慮している。

## 校地間の移動

本学では庄内校舎からK号館の間に徒歩10分弱という距離があり、楽器等を携帯しての移動や両校地間の治安・交通事情などを考慮し、スクールバスを運行(月～金 8:50～20:40/土 8:50～17:10)している。運行時間は概ね授業の開始及び終了時刻に合わせ、30分から40分間隔で運行している。

学生アンケートによると特に朝1限からの授業がある場合にはこの庄内校舎とK号館の隔たりが遅刻や欠席の理由として多く挙げられている。スクールバスの便数には限りがあり、これに乗り遅れると始業時に間に合わないという状況である。定時のバスに乗車できるよう努めることも重要だといえるが、混雑する時間帯はバスの運行を頻繁にするなど、教室使用の計画時点で学生の便宜を考慮することもまた必要といえる。

## 5. 学生への経済的支援

家庭の経済的理由により修学が困難な学生に対する奨学金としては日本育英会奨学金に加え、本学独自の奨学金制度を設けている。また、2003年度より、学生の積極的な勉学を支援し、優れた学修成果を賞する目的で、新しい奨学制度がスタートした。さらに、短大1年次生と大学3年次編入試験に合格した短大2年次生を対象とする、夏期休業期間中に海外や国内の音楽研修・セミナーの受講希望者に所定の経費を援助する短期学外研修(海外または国内)制度も設けている。この制度には2004年度には応募者がいなかった。以下に本学にて取得可能な奨学金の種類を示す。図表53に2002～2004年度における奨学金の受給者一覧表を示す。

### 財団法人大阪音楽大学奨学事業財団奨学金

月 額：45,000円

資 格：人物・学業ともに優れており、家庭の経済的事情により修学が困難な者

募集時期：4月上旬

人 数：若干名

返 還：貸与終了月の翌月から起算して6ヶ月を経過した後、20年以内に返還。

年賦による返還が原則 無利息

独立行政法人 日本学生支援機構奨学金

・第一種奨学金

月 額：52,000円

期 間：最短修業期間

資 格：とくに優れた学生であって経済的理由により著しく修学に困難がある者

募集時期：4月上旬

人 数：若干名（在学採用）

返 還：貸与金額により返還期間は異なる。 無利息

・きぼう21プラン奨学金

月 額：30,000円・50,000円・80,000円・100,000円より選択

期 間：最短修業期間

資 格：人物・学業ともに優れ、経済的理由により修学に困難がある者

募集時期：4月上旬

人 数：若干名（在学採用）

返 還：貸与金額により返還期間は異なる 有利子（3%を上限とする変動制利子）

大阪音楽大学奨学事業財団奨励金

海外留学、海外・国内音楽講習会参加等のための経費の一部を給付して、学生の教育・研究活動を援助している。

種 類：海外留学奨励金、海外・国内音楽講習会参加奨励金、海外・国内音楽コンクール参加奨励金（原則として入賞者）、その他奨励事項奨励金

資 格：学業・成績ともに優れている者

回 数：当該年度において1人につき1回限り

短期学外研修（海外または国内）

2004年度から夏期休業期間中に海外や国内における音楽研修・セミナーの受講を希望する学生を対象とした、短期学外研修が実施されており、学外（海外・国内）での短期研修を希望する学生に対し所定の経費を援助している。その条件等は図表54のようになっている。

音楽社会活動賞

2003年度より音楽を通じた継続的ボランティア活動や創造的な音楽活動（コンクール等は対象外）に対し、音楽社会活動賞を授与している。なお社会活動特別実習の単位認定も行っており、これについては別途案内している。

対 象：全在学生（ただし最終学年の者）

表 彰：卒業式において学長より表彰状及び記念品を授与し、その功績を称える。

学生自主活動への助成金

演奏会や発表会など、すべて学生の手で行う自主的な活動に対して本学の音楽文化振興財団が助成を行っている。学生の音楽活動を支援する目的で、自主公演による演奏会に助



成金を拠出するもので、2003年度は、短大の学生が関係した14公演に、総額2,368,378円を助成された。

短期大学部優秀賞

2003年度より卒業時に在学中の学修状況や活動において特に優秀と認められた学生に対しての卒業時褒賞制度として、成績優秀者への褒賞として優秀賞を授与している。

対象：短大2年次生

表彰：卒業式において学長より表彰状及び記念品を授与し、その功績を称える。

図表 53 奨学金受給者数 (2002～2004年度)

(各年度5月1日現在)

奨学金名称	種別	貸与額	2002年度		2003年度		2004年度	
			1年	2年	1年	2年	1年	2年
大阪府育英会		¥29,000	0	1	0	0	0	0
		¥30,000	0	3	0	0	0	0
あしなが育英会		¥50,000	0	1	0	0	0	0
岡山県育英会		¥42,000	0	1	0	0	0	0
島根県育英会			0	0	0	0	1	0
ヤマハ音楽支援制度 学生奨学支援		¥50,000	0	0	0	0	1	0
日本学生 支援機構 (日本育 英会)	第一種 奨学金	¥50,000	11	12		12	0	1
		¥51,000						
		¥52,000			15		8	16
		¥57,000	5	4		5		1
		¥59,000			2		5	5
		¥60,000						
	¥61,000							
	第二種 奨学金	¥30,000	2	2	6	1	4	5
		¥50,000	23	23	14	22	16	14
		¥80,000	11	12	14	12	22	16
		¥100,000	31	21	42	29	45	39
	入学時 特別増額	¥300,000 (1回)			2		18	
	大阪音楽 大学奨学 事業財団 奨学金	一般	¥43,000		21			
¥45,000			23	6	11	28	19	15
特別奨学金		¥2,190,000	1	4	0	1	1	4
(総額)			¥400,000	¥2,590,000		¥400,000	¥650,000	¥2,720,000
	年度合計		107人	111人	106人	110人	140人	116人

図表 54 短期学外研修助成金を受ける為の条件

趣 旨	夏期休業期間中に海外や国内における音楽研修・セミナーの受講を希望する学生を対象に所定の経費を援助する。
研 修 内 容	音楽研修・セミナーについては特定しない。 参加手続は学生本人が行う。
助成額（上限）	海外：60万円 国内：20万円 いずれも領収書などに基づく実費精算
対 象 学 年	短大1年次
申 請 資 格	短大1年次生で第2セメスターの専攻実技あるいはテーマ研究の成績が「秀」及び、全科目の平均成績が優秀な者。
申 請 期 間	2月上旬～3月上旬の期間に申込書を提出。
審 査 方 法	書類選考 実技オーディション 外国語 面接

## 6. 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制と利用状況

### 健康管理

学校保健法に則り、毎年4月に学生の健康診断を実施している。健康相談は保健室（看護師の資格をもつ専任職員1名を配置）にて随時行っている。その他、応急処置は保健室で行い、症状によっては専門医を紹介している。2002～2004年度の保健室の利用状況、健康診断の受診状況を図表55、56にそれぞれ示す。

図表 55 保健室の利用状況（2002～2004年度）

学 年	2002年度	2003年度	2004年度
1年	533 (187)	269 (49)	236 (49)
2年	308 (51)	434 (142)	261 (57)
合 計	841 (238)	703 (191)	497 (106)

・対象者数 = 在籍者数 - 休学者数

・上段 : 延べ利用者数

下段 : ベッド使用者数

図表 56 健康診断の受診状況（2002～2004 年度）

学年	2002 年			2003 年			2004 年		
	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率
1 年	421	414	98.3%	361	353	97.8%	314	307	97.8%
2 年	448	342	76.3%	418	349	83.5%	386	336	87.0%
合計	869	756	87.0%	779	702	90.1%	700	643	91.9%

・対象者数 = 在籍者数 - 休学者数

### メンタルケア

学務センターに設置されている学生相談室、及び心の相談室が設けられている。心の相談室には、専門のカウンセラーを外部（契約カウンセラー：六甲カウンセリング研究所）より委託し、希望者に対しカウンセリングを行っている。また、所定の相談日（毎月第2月曜日及び第4水曜日）以外にも電話による直接相談を行っている。図表 57 に 2002～2004 年度における心の相談室の利用状況を示す。

図表 57 「心の相談室」利用状況（2002～2004 年度）

年 度	カウンセラー数	利用者合計	短大1年次	短大2年次
2002 年度	2	44	14	10
2003 年度	3	32	5	7
2004 年度	3	51	11	11

相談回数はカウンセラー1人につき、月1回  
利用者数は述べ人数

### キャンパス・ハラスメント相談

本学では近年、多く取り上げられている大学内におけるセクシュアル・ハラスメントを始め、アカデミック・ハラスメント、アルコール・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどの様々なキャンパス・ハラスメントに対応するための教職員の中から任命された専属の相談員（ハラスメント相談員：教員3名、職員2名）を配置し、恒常的に相談を受け付けている。この相談員との連絡は、直接相談のほか電子メール、携帯電話、封書（郵送等）の3つの手段を用意し、Campus Guide や学生たちが集う場所での掲示等を通じて公表し周知を図っている。

特に従来、音楽系大学において問題となっていた教員による演奏会等チケットの学生に対する販売に対しては、2001年5月の大学・短大合同定例教授会において教員は、その立場を利用して、学生に演奏会のチケットの購入を強要しないとの申し合わせ事項が了承されている。

また、アルコール・ハラスメントについては大学関係において問題となっている所謂新生歓迎コンパなどは未成年者の飲酒及び、飲酒の強要などの問題を含むことから、学生に対して未成年者の飲酒禁止ならびに過度な飲酒の回避などについては掲示や Campus

Guide 等を通じて注意の喚起に努めている。また、教職員に対しては 2004 年度は弁護士を講師に招き講習会を催し、様々なハラスメントに対して意識の向上と注意を喚起した。

## 7. 学生に対する各種記録の整理、保管

### エクステンション事業部門

学生に関してエクステンション事務部門で管理している記録は進路調査カード（兼求職票）、就職活動記録、音楽教室講師採用試験受験記録である。進路調査カード（兼求職票）は、在籍学生が希望する進路調査を目的とし、本カードを提出することにより就職相談や就職活動用各種証明書の発行等が行われる。就職活動記録用紙は、在籍学生が実際に体験した就職活動についての記録であり、後輩達の就職活動の参考資料として活用されている。音楽教室講師採用試験受験記録は音楽教室への就職活動についての記録であり、本学が音楽教育に特化した短期大学であることから、一般的な就職活動記録である就職活動記録用紙と区別して扱っている。

### 学務事務部門

学生の学籍に関する以下のような書類については学務事務部門において永久保存している。

- ・学籍簿（永久保存）
- ・学生カード
- ・学生名簿
- ・学生名表
- ・入学時の誓約書
- ・学籍異動の記録（永久保存）
- ・退学休学復学許可書発行台帳
- ・学生相談記録

## 第4節 進路支援

### 1. 進路支援の組織体制と就職状況（就職率及び就職先）

本学在学生の進路希望は様々である。音楽関係企業への就職、一般企業への就職、音楽指導員やアーティストを目指す人、音楽以外の仕事につきながら音楽活動を続けたい人、自分自身の音楽の追求のためにあえて就職はせずに音楽活動に専念したいと考える人など多彩である。このような卒業生の進路状況や在学生の進路希望をきめ細かく調査することで、それぞれが希望する就職や音楽活動を行えるようエクステンション・センターでは以下のような業務を通じ、随時サポートしている。

- ・進路説明会
- ・進路支援セミナー
- ・就職のためのガイダンス
- ・就職支援講座
- ・就職活動状況調査

- ・資格取得準備講座
- ・教員採用試験受験対策説明会
- ・公務員採用試験受験対策説明会
- ・音楽教室講師採用説明会
- ・求人（企業）情報検索システム
- ・進路（就職）情報検索用パソコンの設置

2002～2004年度の就職状況は図表58のようになっている。

図表59に2004年度における進路状況を進学状況も含めて示す。また図表60に主な就職先機関の名称を示す。

短期大学全体の進路状況では、実数として最も多い層は大学3年次編入である。これには同一法人内に4年制大学を併設していることが大きく関わっており、本学の特徴と言える。本学に入学した学生は短期大学をステップアップのための一つの手段と捉え、卒業後にもさらに学習を継続し、より成長したいと望んでいると言える。

専攻別に見ると、声楽専攻は進学傾向が強く、器楽専攻のうちピアノを専門に学んだ学生は短期大学卒業後に直ちに専門を活かした教育活動に関する職に就くものが多い。同じ器楽専攻でも管弦打楽器を専攻した学生は就職には繋がらず進学やアルバイト、フリーターとなっている。また音楽専攻は進学希望が最も少なく、短大全体の特徴と大きく異なっている。また就職率についても同専攻は平均を下回っており、短期大学の2年間を終えた後、社会に出てから何らかの方向を見つけようとしていると考えられる。

就職希望者の就職率が上昇傾向にある点は良い点であるが、就職が決まった者の多くが学生の自己開拓によるものである現状を見ると、大学としての就職サポートが微力であり、今後の課題であると感じられる。しかし、本学は、卒業生の約3分の1の学生が大学への編入や専攻科進学の道を選ぶ状況であり、毎年、多数の進学希望者を抱えている。特殊な状況下ではあるが、就職支援にもより多くのエネルギーを投じる必要性を認識している。なお、音楽大学に特徴的な事柄であるが、就職支援と共に、演奏活動など、就職という概念よりもさらに広い音楽活動全般への卒業後支援もぜひ視野に入れておく必要がある。音楽文化の創出者、よき送り手として卒業後に演奏活動を継続して行っていくことは、音楽系の専門短期大学として極めて重要な進路であるといえる。本学ではこの点について独自に音楽人材登録制度を設け、演奏家や指導者などの人材を求められている所へ紹介し、支援している。図表61にその状況（2002～2004年度）を示す。この音楽人材登録は、本学の卒業・修了生の希望者を所定の手続きによりエクステンション・センターに登録するもので、紹介先としてはソリストや合唱、アンサンブルとして演奏から吹奏楽やヴォイス・トレーナー、ギターやジャズの指導者、音楽に関する各種の講演、作・編曲から浄書、舞台スタッフや音楽プロデューサー、音楽関連の翻訳、通訳など音楽に関わる広い分野にわたる。

また、特に音楽専攻については、2005年度からこのカリキュラムを見直し、ジャズ・ポピュラー専攻としたことで、より専門的且つ実社会に通じる教育を行うことを計画している。2005年度にはこの新しい試みによる初めての卒業生を送り出すこととなるが、自分たちの将来に向けてどのような方向性を見出して巣立っていくか大いに期待したいところである。

図表 58 本学における就職状況 (2002 ~ 2004 年度)

	2002 年度	2003 年度	2004 年度
(a) 卒業生数	397 人	352 人	348 人
(b) 就職希望者数 (割合 (b) ÷ (a))	141 人 (35.5%)	113 人 (32.1%)	図表 59 に進路状況として詳細を示す。
(c) うち学校で斡旋した就職者数 (割合 (c) ÷ (b))	3 人 (2.1%)	2 人 (1.8%)	
(d) うち自己開拓分の就職者数 (割合 (d) ÷ (b))	67 人 (47.5%)	73 人 (64.6%)	
(e) 不明・無業者数 ((b) - (c) - (d)) (割合 (e) ÷ (a))	71 人 (17.9%)	38 人 (10.8%)	

b は短大 1 年次 10 月の進路調査カード提出者のうち就職希望者数

c の本学で斡旋した就職者数については学校推薦での就職者数

e はフリーター及びアルバイトを含む。

図表 59 本学における進路状況 (2004 年度進路調査集計)

	作曲専攻		声楽専攻		器楽専攻						音楽		計		
					ピアノ		管弦打		箏(邦楽)						
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
就職	音楽教室(企業)講師					9						4	0	13	
	音楽教室(自営)講師			1		13						1	0	15	
	演奏活動		1				1				2	2	3	3	
	企業(正社員)			1		9		3			2	5	2	18	
	企業(契約社員)					3		3			1	8	1	14	
	教員(常勤)												0	0	
	教員(非常勤)							1					0	1	
	公務員(国家)												0	0	
	公務員(地方)					1	1						1	1	
	その他				1	3		1				5	0	10	
	男女別小計	0	1	0	3	0	38	2	8	0	0	5	25	7	75
	小計	1		3		38		10		0		30		82	
	割合	16.7%		8.3%		34.2%		16.9%		0.0%		22.1%		23.6%	
進学	学部編入	1		1	13	2	26	5	14			3	9	56	
	短大専攻科	1			3		3		2		1	3	2	11	
	留学				1						1	1	1	2	
	通信教育						1				1	2	1	3	
	放送大学												0	0	
	専門学校				3		2		1			2	0	8	

	科目等履修生・聴講生				1									0	1
進 学	その他						1	1						1	1
	男女別小計	2	0	1	21	2	33	6	17	0	0	3	11	14	82
	小計	2		22		35		23		0		14		96	
	割合	33.3%		61.1%		31.5%		39.0%		0.0%		10.3%		27.6%	
そ の 他	アルバイト	1	1		3	1	5	3	6			5	37	10	52
	フリーター	1			3		17	1	9			5	22	7	51
	進学・留学準備				4		5	1	3			3	8	4	20
	その他				1	1	1	1	1			3	3	5	6
	未記入						4						4	0	8
	男女別小計	2	1	0	11	2	32	6	19	0	0	16	74	26	137
	小計	3		11		34		25		0		90		163	
	割合	50.0%		30.6%		30.6%		42.4%		0.0%		66.2%		46.8%	
調査書回答者合計		6		36		107		58		0		134		341	
卒業・修了者数		6		36		111		59		0		136		348	

図表 60 主な就職先機関

種 別	就職先機関名
音 楽 教 室	ヤマハ音楽教室、カワイ音楽教室、イシオカ楽器、リトミック研究センター、玉田ピアノ、ワタナベ楽器店、中川音楽教室、メロディア楽器 他
教 員 ・ 講 師	八尾市立南高安小学校（非常勤）
企 業（楽器店）	山野楽器 他
企 業 ・ そ の 他	池田銀行、りそな銀行、フランドル、オンワード樫山、ジュンク堂、クライトンホテル、ワールドテレネット、積水ハウス、関西情報サービス、東芝テクノネットワーク、大日本印刷、石井表記、ほっとすてんしょん、JAUSJ、ファーストリテイニングユニクロ、ジャンボカラオケ広場、障害者自立センター・つなぐ、ララ・プラン、しおたにクリニック、アズノウアズ、GIS クレオス、シテイライフニュー 他
公 務 員	大津市教育相談センター、和田山土地改良事務所 他

図表 61 音楽人材紹介実績（併設教育機関との合計数 2002～2004年度）

年 度	演奏者（個人・団体）	音楽指導者	講師等
2002年度	108件	110件	24件
2003年度	189件	77件	18件
2004年度	112件	80件	40件

## 2. 就職情報等の提供

学生の就職支援に関わる事業の企画運営を司る委員会としてエクステンション事業委員会

を組織している。構成はエクステンション・センター長（教員）、エクステンション事務部長（職員）、理事2名、教員3名となっている。また、これらエクステンション事業の事務的バックアップを行う部署としてエクステンション・センター（就職担当課員 専任職員1名、派遣職員1名）を設置している。

エクステンション・センターの就職支援の業務内容及び状況は以下の通りである。

- 進路情報等の提供 -

- ・参考書籍の設置及び貸し出し
- ・大学、各種専門学校の入学案内の設置
- ・情報収集用のパソコンの設置（学生の自由使用可）
- ・参考書籍の設置
- ・留学生情報の収集

- 就職情報等の提供 -

- ・業種別求人票のファイリング及び掲示
- ・就職情報収集のためのパソコンを設置
- ・ホームページでの求人情報の公開
- ・就職調査の実施とそれをベースにした個別の就職相談
- ・就職担当課員による企業訪問（求人依頼・情報収集）
- ・進路（就職）ガイダンスの実施

1年次の10月に進路ガイダンスを実施し、進路ハンドブックを配布している。このハンドブックにはエクステンション・センターの利用方法、進路支援に関するスケジュール、就職のためのノウハウや情報等を掲載しており、就職活動の参考としている。

### 3. 就職のための資格取得、就職試験対策

#### 就職関連各種説明会

エクステンション・センターによって、企業、音楽教室、教員、公務員等の採用説明会の実施が行われている。

#### 資格取得準備講座

就職のための資格取得、就職試験対策を実施しており、中学校教諭二種免許状（音楽）の取得状況については、第 3 章第 1 節 3 . 取得可能な免許・資格に示した。また、その他の資格についての取得状況は、第 3 章第 3 節 1 . 取得可能な資格と取得状況に示した。

#### インターンシップの実施

インターンシップについては本学のエクステンション・センターを窓口、主として音楽系の企業等へ受け入れを申し入れている。これを就職の足がかりとしながらも特別実習科目として2単位の認定を設け、卒業要件の取得にも配慮し積極的に推奨している。図表 62 に 2002～2004 年度のインターンシップ状況を示す。



図表 62 インターンシップの実施状況（2002～2004 年度）

受け入れ先	実習業務内容	2002 年度		2003 年度		2004 年度	
		受入定員	実習人数	受入定員	実習人数	受入定員	実習人数
(株)ヤマハミュージック大阪	売場実習	6	3	6	0	6	4
	音楽教室運営 / 管理	3	0	3	2	3	0
大阪アーティスト協会	演奏会運営	2	0	2	0	2	1
いずみホール	ホール企画 / 運営補助	2	1	2	0	2	0
三木楽器 (株)	コンペティション業務実習	12	1	5	0	9	1
大阪音楽大学附属音楽幼稚園	保育助手業務の実習	3	0	3	2	3	0
(株) 福永管楽器	リコーダー作成作業	3	2	3	1	3	1
(株)河合楽器製作所	音楽教室業務 / 売場実習	2	1	2	0	2	1
ザ・フェニックスホール	ホール運営業務全般	1	0	1	0	2	1
伊丹アイフォニックホール	ホール運営業務全般			5	1	2	0
清家楽器	音楽教室業務全般	3	0	5	2	5	3
大阪音楽大学音楽博物館	博物館業務全般	4	0	3	0	4	1
(株)全音楽出版社	幼児の器楽合奏会の運営補助			5	4		
	幼児音楽講座での販売・受付			5	3	4	2
	ピアノ発表会運営補助			5	4	5	4
	搬入 / 搬出 / 舞台セッティング	5	0				
	誘導 / 会場係 / アナウンスの手伝い	5	3				
	展示販売 / 受付 / 舞台の手伝い	5	2				
大阪センチュリー交響楽団	オーケストラの練習・本番までの舞台裏					5	3
(株) ステップ	制作部（テレビ・ラジオのCM制作等）					2	2
びわ湖ホール	ホール運営事業全般					2	0
合 計		56	13	55	19	61	24

・受入定員は併設大学との合計数。(株)ステップは夏・春2回各1名づつ。

### 就職状況（過去3 年）について

就職希望者の就職率が上昇傾向にある点は高く評価すべきことであるが、就職が決まった例の多くが学生の自己開拓によるものである現状を見ると、大学としての就職サポートが、今後の課題である。しかし、本学は、毎年、多数の進学希望があり、今後、就職支援により多くのエネルギーを投じる必要がある。なお、音楽大学に特徴的な事柄であるが、就職支援と共に、演奏活動など、就職という概念よりもさらに広い音楽活動全般への卒業後支援が重要である。

#### 4. 進学、留学に対する支援

2002～2004年度の進学及び留学の状況を図表63に示す。

本学は同一法人内に4年制大学である大阪音楽大学を併設していることもあり、実技の研鑽を継続して行うために、大学への編入、進学を希望する学生が多い。進学を希望する学生の多くは、短期大学に入学する時点で進学も見据えているようである。しかしながら、併設の大学にはないジャズ・ポピュラー専攻の新設等により、短期大学での学修を希望する学生も増加しており、進学の割合については減少傾向にあることが図表63からも見て取ることができる。また、留学に関してはその希望を抱く時期が明確でなく、これについては調査等を行い、その傾向について検討することが必要である。進学、留学に対する支援方法・体制を以下に示す。

- 支援の方法・体制 -

- ・ 大学、各種専門学校の入学生案内の設置
- ・ 大阪音楽大学3学年への編入については適当な時期にガイダンスを実施
- ・ 短期大学専攻科への進学についても同様
- ・ 情報収集用のパソコンの設置
- ・ 参考書籍の設置
- ・ 留学情報の収集と掲示による広報

図表63 本学における進学、留学状況（2002～2004年度）

	2002年度		2003年度		2004年度	
	(人)	卒業生に対する割合(%)	(人)	卒業生に対する割合(%)	(人)	卒業生に対する割合(%)
卒業者数	397		352		348	
大学進学	75	18.9	66	18.8	65	18.7
短大専攻科進学	26	6.5	23	6.5	13	3.7
専門学校進学	7	1.8	8	2.3	12	3.4
留 学	3	0.8	1	0.3	3	0.9
その他	6	1.5	7	2.0	3	0.9
合 計	117	29.5	105	29.8	96	27.6

### 第5節 多様な学生に対する特別な支援

#### 1. 留学生に対する支援

本短期大学部では、過去3年間に留学生3名を受け入れた。留学生に対する支援については以下のように教授会において決定されている。（1986年12月22日教授会決定事項）

留学生に対しては入学希望の段階で、授業が理解できる程度の日本語能力が必要とされている。特に学修の支援については、履修登録時の補助や定期試験の際の支援などを行なっている。図表64に留学生に対する支援事項を示す。

図表 64 留学生に対する支援事項

授 業	日本語の習熟度をはかりつつ、各授業担当者において、適切な課題を与えるなど、適宜支援する。
試 験	時間延長（別室） 別課題 口頭試験
レポート	別課題 口頭報告
評 価	評価基準に基づいて行なう。

## 2. 社会人学生に対する支援

社会人入学に対しては特別な支援は行っていないが、本短期大学の推薦入試においても受験資格として高等学校等を卒業してからの年限は設けていない。受験生が在籍した高等学校等の証明が得られる限りにおいて受験が可能であり、入学試験において所定の成績を修めれば入学可能である。近年は特に時間的な余裕を得た社会人などが本学において学修しようとする例が増加している状況である。

社会人入学についての受験制度が確立されていないことは改善の必要があると思われる。今後、高齢化社会が進むと考えられる社会状況において、退職後にも音楽を学べるような環境と入試制度を整備していく必要があるように思われる。

## 3. 身体障害をもつ学生に対する支援

身体障害をもつ学生の受け入れ、及び在籍状況（2002～2004年度）は図表 65 のとおりである。

身体障害をもつ学生に対する支援については図表 66 のように教授会において決定されている（1986年12月22日教授会決定事項）。

本学は音楽系短期大学部であるがため、入学後の実技に関する学習が困難を供う場合が予想される。2002～2004年度の期間では、視覚障害学生2名が在籍している。

日常的な学習・生活支援については学務事務部門が担当している。また入学時及び年度末のガイダンス時には面談を行うなど履修登録時の補助や、学内における教室移動時の安全確保のため点字誘導ブロックを設置を行なっている、また、試験等では点字プリンターを設置している。

A号館や0号館の1階などには車椅子での使用が可能なトイレを設置し、また各校舎入り口にはスロープを設けるなど、バリアフリー化を推進している。

バリアフリー化に関しては、車椅子用トイレの設置を進めている。

図表 65 身体障害者の在籍状況（2002～2004年度）

年度	学年	専攻	性別	障害状況
2004年度	1年	ピアノ	女	視覚障害
2003年度	該当者なし			
2002年度	2年	管弦打	女	視覚障害

図表 66 身体障害者に対する支援体制

授業	視覚障害学生の場合、テキストの点字訳等は原則的には自弁とすること。 特定の楽譜等については大学が教材の提供・貸与等を行うこともある。 実技を伴う授業については検討中。
試験	点字試験（早めの問題提出） 時間延長・別室試験 面談試験 上記方法のいずれか、または併用による。
レポート	点字 別課題 面談試験 上記方法のいずれか、または併用による。
評価	担当教員が行う。

#### 4. 長期履修者に対する支援

本学では長期履修生の特別選抜は行なっていない。社会人学生は入学後に本人の希望で休学する場合もあるが、その場合には最長在籍期間の間に復学し、所定の卒業要件単位を取得する必要がある。

#### 特記事項

学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していること

他の項目においても報告したように、本学では学生に対する表彰制度は卒業時に行う優秀賞、社会活動賞が制度化されている。また、ジュニアカレッジ・ソロコンサート、ジュニアカレッジ・アンサンブルコンサート、新作展など、学生が応募し、自己の学修の成果をオペラハウスやミレニウムホールにおいて発表できる機会を設けている。